



四中だより

令和2年 5月11日
荒川区立第四中学校
学校だより 第1号

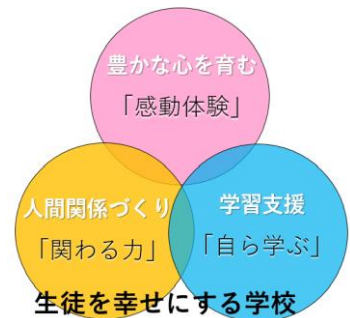
本年度のスタートにあたり

校長 稲葉 裕之

このたび、荒川区立第四中学校に校長として着任にいたしました 稲葉 裕之 と申します。同じ区内の諏訪台中学校より参りました。この第四中学校は、私が教員人生をスタートさせた、思い出深い学校であります。その学校にこうしてまた勤務できることを、とても嬉しく思っています。第四中学校が“生徒の幸せにする学校”となるよう、学校運営に取り組んで参りますので、ご協力ほど、よろしくお願い申し上げます。

* * * * *

さて、現在、新型コロナウイルス感染症より、世界全体に甚大な被害が出ており、その拡大防止対策として、日本では、外出自粛の呼びかけなどの社会活動の制限を行っています。先日、非常事態宣言の延長がされたことは周知のとおりです。学校教育においても、多くの区市町村で休校措置が執られており、教育活動を未だ再開できずにいます。第四中学校でも、授業や学級活動などの学習活動はおろか、新1年生は入学式すら行えていません。そのため、授業で勉強を教えてもらえない不安や、友達や先生と会えないストレスを感じているかもしれません。



このような状況を踏まえ、みなさんには、中学校＝義務教育で身につけてほしい2つのことについてお話します。

一つは、「**自ら学ぶ**」ということです。

学校では、みなさんは授業などを通じて「知識」を学んでいます。そして、それと同時に、勉強のやり方三
学び方も学んでいるのです。人は社会に出てからも自分の仕事について学んで、身につけていかなければなりません。そのためには、「人から学ぶ」、「体験から学ぶ」、そして「自分から学ぶ」、そうした力が大切になります。今回は、「自ら学ぶ」力です。先生たちは、一人でも取り組みやすいような課題を用意しました。この機会に「知識」とともに、生涯にわたって通用する「自ら学ぶ」力も身につけてほしいと思います。

二つ目は、「**人と関わる**」ということです。

学校では、行事や学級活動を通して、「感動を体験する」とともに、友達といっしょに作り上げる＝「人と関わる」経験をしてもらっています。それは、社会で生きていく上で必要な力だからです。今は残念ながら、そうした経験ができません。しかし、そんなときだからこそ、人との関わり大切さを考える機会として欲しいと思います。ニュースをみていると、いろいろな人たちの言動が報道されています。その中から、人との関わり＝社会のなかで恥ずかしい行為とは何か、正しい・尊敬される行動とは何か、そうしたことを考えてみてください。その経験は、学校が始まってからよい友人関係に、そして、社会に出てからの「人と関わる」力につながっていくと思います。

* * * * *

今しばらくは、家の中での生活が中心になるかと思いますが、この間の取り組みが、学校が再開したときに生徒自分自身の力となり、その後の成長の糧となるよう、ご家庭でもご指導・ご協力をお願いいたします。

連絡事項

- 一学期の行事について
1年生・2年生、D組の移動教室は、荒川区として中止といたしました。
運動会、修学旅行、期末考査については延期、詳細は後日あらためてお知らせいたします。
- 就学援助の申請書について
就学援助の申請書の提出期限は、6月19日(金)までにあらためます。学校再開後にご提出ください。